

神奈川歯科大学・被災者支援プロジェクト

～ 厚生労働省および宮城県歯科医師会の要請による歯科医療従事者派遣の活動報告 ～

報告者 : 渥美 美穂子 (インプラント科)

【日 程】 平成 23 年 6 月 26 日 (日) ～7 月 3 日 (日)

【派遣者】 6 名 (五十音順)

渥美 美穂子 (歯科医師 顎口腔機能修復科学講座 講師)
岡部 陽子 (歯科衛生士 附属病院)
久保田 友嘉 (歯科衛生士 健康科学講座口腔保健学分野)
黒羽 加寿美 (歯科衛生士 健康科学講座口腔保健学分野)
相良 恭子 (歯科衛生士 附属病院衛生士長)
錦織 聡明 (歯科医師 附属病院インプラント科)



【活動内容】

月日	活動地区・避難所名	活動内容
6/26 (日)	仙台市 宮城県歯科医師会館	説明会、器材等の準備、搭載
6/27 (月)	南三陸町歌津地区小野寺歯科仮設診療所訪問	南三陸町の歯科医療支援の現況の確認
6/28 (火)	南三陸町ベイサイドアリーナ 介護老人ホーム 公立志津川病院口腔外科訪問	歯科治療 1 名、口腔ケア 11 名、その他 2 名 志津川地区の歯科医療の現況確認
6/29 (水)	登米市旧鱒淵小学校, 旧嵯峨立小学校避難所 登米市大阪歯科医院訪問 石巻・女川町	歯科治療 2 名、口腔ケア 6 名、その他 3 名 被災状況の視察
6/30 (木)	南三陸町ベイサイドアリーナ 介護老人施設	歯科治療 7 名、口腔ケア 17 名
7/01 (金)	登米市公民館、津山総合体育館、ふるさと交流館 避難所	歯科医療、口腔ケア支援の説明のみ
7/02 (土)	南三陸町志津川中学、志津川高校避難所	口腔ケア 1 名

《 第 1 日目 : 6 / 26 (日) 》

新幹線で仙台へ向かう。宮城県歯科医師会館に現地集合。支援物資の準備および搭載



《 第2日目：6/27(月) 》 南三陸町志津川地区防災庁舎跡で現地コーディネート三浦夕衛生士と合流。歌津地区で診療を再開されている小野寺先生の仮設診療所を訪問。被災直後より歯科バスを利用して崩壊した地域の歯科医療を支えてこられた方である。小野寺歯科医師によれば、南三陸町は被災前、口腔ケアなどに関して意識が高い方ではなかったが、4月より本支援活動が来て、徐々に人々の口腔ケアに関する意識が向上してきているのを実感しているとのこと。本来の仮設診療所の開設は8月以降になるが、保険診療の優遇措置がある、来年2月までに地域の人々の治療になんとか道筋を付けていきたいと考えているとのこと。



《 第3日目：6/28(火) 》 南三陸町の防災本部であるベイサイドアリーナに集合し、仮設公立志津川病院、介護老人施設 ハイムメアーズを訪問。本施設では被災後、入居者は岩手県にある系列施設に避難していたが、昨日より入居者が戻り始めているとの情報があり、口腔ケアが必要かどうか訪問した。長く別の場所にいたので、口腔ケアも久しぶりとのことで、順次、行っていくことにした。急性期の歯科治療よりも口腔内の清掃や、義歯の清掃などが主であった。上水道は復旧してきていたが、まだ、下水は不可であった。



《 第4日目：6/29(水) 》 前日に登米市の避難所より連絡があり、急遽入ることになった。登米市は南三陸に隣接していて、



津波の影響はなかったが、かなりの南三陸の方々が避難している。しかし、行政区分が異なることと、本地区の歯科医院は通常の診療を行っているため、これまで、歯科支援はあまり入ってこなかった地区である。しかし連絡の不備で避難者は在所されている方が少なかった。旧鱒淵小学校避難所にて口腔ケアや治療3名、旧嵯峨立小学校避難所では3名の処置を行った。登米市内は通常の通院治療可能であるのでお勧めした方がいたが、通院の足がなく、躊躇されているとのこと。嵯峨立小学校避難所の施設長からは今後の訪問診療について要請があった。宿泊所に戻る途中、石巻、女川地区の被災状況を視察。南三陸地区は津波によって町全体が流されてしまった感があるが、石巻、女川地区は津波を被った建物が流されず倒壊した状態で残っており、こちらはまた違った悲惨な状況が見て取れた。



《 第5日目：6/30(木) 》 志津川中学に集合。この周辺では一番の高台になり、南三陸町の被災状況が一望できる。被災直後から比べれば、瓦礫等の撤去も徐々に進んでいるのであろうが、初めて現実に目にする我々にとっては、今後どのように復興、復旧がなされていくのか皆目予測がつかないような状況に、ただ、ただ、啞然とするばかり。仮設住宅の建設は急ピッチで進んできてはいるが、町全体、住宅も家族も仕事も失って、自立への道りはそう簡単ではないことが、この現状を見るだけでも理解できる。



老人介護施設 歌津つつじ苑を訪問。これまでの支援チームが定期的に入って、義歯の調整などを行って来て経過は良好である。4名を処置。午後は再びハイムメアーズを訪問し

13名に口腔ケアや簡単な治療をおこなった。通院治療が必要な方には近院受診を勧めるが、通院の手段などの関係でなかなか難しそうであった。

《 第6日目：7/1(金) 》

再び登米市の避難所を登米公民館、津山総合体育館、ふるさと交流館を順次訪問するも、外出中の方が多く、利用者はいなかった。



《 第7日目：7/2(土) 》

志津川中学に集合。宮城県歯科医師会より追加の支援物資が届き三浦さんに届ける。ガムナイトケア、クリアクリーン子供用、チェックアップジェル、ピュアオーラ、デントシステム、キラリ 義歯洗浄剤など。志津川高校避難所を訪問したが、温泉旅行でほとんどの方々は外出中。1名の口腔ケアを行ったのみ。本日午前中で南三陸地区における活動を終了。19:00より宮城県歯科医師会で本活動の報告会および引き継ぎに参加。今回の活動が無事に終了できたのもコーディネータの三浦さんが随行していたおかげであろう。最後に、三浦さんを交えて記念写真。今後の交流をお約束してお別れをした。

【まとめ】

現地歯科医療の現況把握には現地コーディネータの存在が不可欠。避難所の数から場所まで、日々刻々と変化している。日本歯科医師会や県歯科医師会の本部等に入る報告だけではタイムラグがあり、詳細な把握が困難。三浦さんは南三陸町唯一の歯科衛生士であり、震災までは隣市の歯科医院に勤務されていたが、ご自分も被災されたのを機に、地域医療のためにコーディネータとして活躍されている。地域の方々と顔と顔がわかりあえる関係で、彼女が同行していることで安心されていた。こういった方のサポートがなければ支援活動は円滑に行われまいであろう。

- 現地のニーズは減少してきていると考えるよりも、今後はニーズの個別化にどの様に対応していくか。避難所にたくさん人が集まっていて、それを一気に検診するような、歯科医師サイドの効率性ばかりを考えていては現場のニーズとは乖離するばかりだろう。
- 短期ボランティアが入ることで、現地の先生が後始末と考えるような事柄など、問題は起きると思う。しかし、それでも外部からの支援が必要なケースがあると思う。
- 非効率的な分野に全国から申し出のある支援をうまく利用していくのはどうか？支援を打ち出すボランティアサイドは、非採算部門にどれだけ付き合っていくのか？
- 被災地区の方々は震災から助かって安堵した時期を過ぎ、今後の生活をどのようにしていくのか、どう自立していくのかという現実を目の当たりにする時期に来ている。
- 今後の支援は、この震災がきっかけとなって、これまでわかっていても手付かずに来た事に対して(例えば口腔ケアや訪問診療など)、地域歯科医師、コーディネータ、行政、支援ボランティアなどが一体となって、新しい仕組みを構築していくことあると思う。それには、被災者を中心に据えて、皆が、互いの主張、立場を少しずつ我慢して、協力し合っていくことが必須であろう。今後、短期に終了する支援だけでなく、息の長い長期的な視野に立った活動が必要と考えた。

最後になりますが、本活動に尽力されている三浦さんをはじめとする地域歯科医療関係の皆様、宮城県歯科医師会関係の先生方、および行政筋の方々に深く敬意を表します。南三陸地区の一日も早い復興を心より願ってやみません。